

チャイルドライン とちぎ



チャイルドラインとちぎは 18 歳までの子どもがかける
子ども専用の電話とオンライン相談を開設しています。
全国のチャイルドラインと連携し、毎日 16~21 時まで
フリーダイヤル等、無料のツールでつながっています。



『う』

松江 比佐子

私たちは
「子どもの権利条約」の理念に基づき
すべての子どもたちの豊かな「子ども時代」が保障され、
自分らしく生きていくことができる社会作りを
目指しています。

発行元 認定 NPO 法人チャイルドラインとちぎ広報部
〒320-0837 宇都宮市弥生 1-6-3
Tel&Fax 028-614-3253
E-mail info@cltochigi.org
<https://www.cltochigi.org/>



公開講演会

生きづらさを抱えた少女たちの

「今」と「これから」に必要なこと

6月23日、10代20代の生きづらさを抱え、居場所のない少女たちの支援を続けている NPO 法人 BOND プロジェクト代表の橘ジュンさん達にお越し頂き、とちぎ青少年センターアミークスに於いて公開講演会を開催いたしました。2012年3月には、パートナーでカメラマンの多田憲二郎さんとお二人でお話を聞かせてくださいましたが、今回はかつて支援を受けていた少女が今はスタッフとして活動しているさくらさんとレイアさんも一緒にご登壇くださり、今の現状を詳しくお話しくださいました。



橘ジュン氏 プロフィール

NPO 法人 BOND プロジェクト代表。ルポライター。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支える NPO 法人 BOND プロジェクトを設立。虐待、家出、貧困など様々な困難を一人で抱えてしまう女の子の声を聴き、講演・イベントなどで情報を伝え、必要に応じて専門機関へ繋ぐ活動を展開。行き場所がなく困っている目の前の女の子のために街のパトロールや保護の活動も行う。

BOND プロジェクトの活動から見た、今の女の子たちの現状

2006年に創刊以来「VOICES MAGAZINE」で、生きづらさを抱える少女たちの声を多く聴き、伝えてきたがさらに少女一人一人に見合った支援や大人につなぐため2009年に NPO 法人 BOND が設立されました。

家や学校に居場所がなく様々な困難を抱えた少女たちは、状況を変えるために家出しか方法が思いつかず、SNS を利用して居場所を求め、寂しい時に一緒にいてくれる大人について行った結果、誘拐や性犯罪などの事件に巻き込まれたり、希死念慮をさらに強めてしまったりしています。そのようなハイリスクの若年女性を見つけるために、BOND では若いスタッフが中心となって街頭パトロールやネットパトロールをしています。新宿、池袋、渋谷の街頭パトロールは週3回実施されており、「夜の街に帰さない」を目標に、声かけ、相談カードや VOICES を手渡ししながら、面談、緊急保護、同行支援などに繋がっています。ネットパトロールでは、X(旧 twitter)と質問投稿系サイトを中心にアウトリーチ、通報、流行傾向の収集を行っています。

LINE やメール、電話での相談、オンライン面談は 365 日受け付けており、ボンドのイエ（シェルターやシェアハウス）では、短期保護、中長期保護、自立に向けての見守り支援を行っています。

2023年3月に女の子たちの昼間の居場所としてオープンした MELT は、自分を見つけて何かを変えたい少女たちを応援するスペースとなっています。

2023年8月に始まった VOICES の web version では、友達や親にも話せない気持ち、でもどこかの誰かに聞いて欲しいことを書き込める掲示板を設立するなど、様々な活動が行われています。

それでも支援につながることを望まない少女がいたり、心の不安定さやトラウマの症状から回復や自立には相当の時間がかかるなど、とてもハードルの高い支援活動を根気強くされています。

若い女性を取り巻く現状としては、OD・薬物に関する情報は SNS 上に溢れており、風邪薬や睡眠薬など家庭にもある薬を辛い現実から逃避するため、多幸感や開放感を得るために大量摂取してしまう現状、トー横・歌舞伎町・大久保公園周辺に集まる女の子たちの現状、ホスト・メンズコンカフェと女の子たちの現状、前日に視察した宇都宮のオリオン通りの現状などを、とてもリアルに語っていただきました。



講演を聞いて ～来場者から多くの感想が寄せられました～

♣NPO 主宰する橘さん、タダさん。そして何より元当事者で今は BOND プロジェクトのスゴ腕スタッフの S さん、R さんに感動しました。あの場に立てるのはとても勇気があることで、自分に正直でありながら意思の強さを感じます。本当に感謝です。また橘さん、タダさんがお二人を心から信頼しているのだなと思いました。講演内容について私は歌舞伎町、トー横、池袋、渋谷に集まる 10 代、20 代の女の子がどういった思いで集まるのかに興味がありました。小学生の家出、中高生がネット上の文面や動画を見て市販薬を規定以上に飲む。「ふわっとする。」「ディズニーランドにいるみたい。」嫌なことを忘れたいなんて、誰にでもあることですね。市販薬やスマホは私の家にもあります。

講演前日に BOND プロジェクトの皆さんがオリオン通りを歩いたそうです。歌舞伎町より通りは広いけど一本路地に入ると怖さを感じたと話されました。私は仕事で児童養護施設に勤めてますが、一時預かりで来る子どもがコンセプトカフェ（コンカフェ）に通って親が困っている。家庭訪問した小学生の子どもとその親がサンリオの〇〇が好き。地雷系ファッションが好きと聞いていたのが、急に目の前にリアルな世界が現れたようでした。

虐待、貧困、寂しさなど、様々な背景を持つ女の子たちに、私も今のできることをしながら関心を持ち続けたいです。街頭パトロール、ネットパトロール、シェルターやシェアハウス。本当は身近な人に何でも話せるような環境があれば、彼女たちに、もっと違った選択肢があるはずです。

今回、多くの勇気をいただいたので、私にできることをやっていきたいです。

♣今回の講演会では、ジュンさんに出会って助けられて自立に向かっている女の子 2 人がスタッフの一員として参加し、自分のことについても話していただきました。自分の中の傷もまだ痛むこともあるだろうけれど人のためになることをしたいからと。こんなスタッフになら寄り添ってもらえる、頑なな心を開いて話してみようという気になる女の子たちも多いことでしょう。

現在、トー横には高齢者、生活保護から抜け出た人、障がい者も多く、高齢者と小学生が疑似家族のようにみえたり、一つの居場所になっているというものはじめて知りました。

TikTok などでもトー横を知り、憧れて地方から目指して家出してくる子たちが多いこと、ボンドの活動の一つネットパトロールから見える、オーバードーズや薬物に関する状況などを聞き、改めて SNS の影響の大きさも感じました。困っている子を探し回っている人がいる。出会うのも大変だけど、出会った子の回復と自立支援が大変、それを理解してくれる人を増やしていくことも大変、横のつながりはあるけれど、まだまだ支援は少ない、大変だと言いながら、毅然としたジュンさんのパワーに圧倒されどおでした。



♣「ト一横」このワードはメディアでよく耳にしましたが、不良がたむろっている場所？と誤認識してました。橘さんの座談会形式の講演会で、当事者の方々のお話を交えながら現状説明。家庭で居場所がない若い女の子の憧がれの場所だとわかり、衝撃を受けました。そんな危うい子たちを探しだして、救う活動の素晴らしさに頼もしさを感じました。

♣これほどにありのままの声を拾える活動団体はそう多くない。10年くらい前になるだろうか、テレビで橘ジュンさんが渋谷で女の子たちに声を掛けている映像を拝見し、こんな風に動いている女性がいるのかと衝撃を受けた。思えばその映像がきっかけで、自然とここチャイルドラインに自分が辿り着いた気がしている。今、自分が娘を産み・育て、他人事ではない昨今、一層関心も深く今回の講演会を拝聴した。時代も変わり自分の少女時代と遊びも感性も全然違う。オーバードーズ！？少女たちの今に困惑。でもその事実を知らないことにすることはとてもできない。今回の講演会は実際にオーバードーズで辛い思いを抱えてきたという若い女性2人が語ってくれた。今は橘ジュンさんと一緒に BOND プロジェクトの活動スタッフのだという。穏やかな雰囲気でも優しいような、街で見かけるようなごくごく一般的な女の子。語られなければそのような過去に苦しんだとは一見想像はできない。



みんなそうかもしれない。“そうは見えないところ”に闇はある。今日も誰かが叫んでいる。講演会で彼女たちが自分の言葉でしっかりこちらに目を向けて話してくれた。自分の経験をもとに、渋谷新宿 池袋で女の子たちの安全を願って声を掛け続けてくれていること、親しみを持ってもらえるようにファッションも現地にいる女の子たちに近い服装で声を掛け話してもらいやすく工夫していること。一生懸命に動き出している彼女たちの姿勢に感銘を受けた。東京に行って活動はできないけれど、私たちも今自分たちにできることを地道に続けよう。

彼女たちが公演日の前日から栃木にきて宇都宮の中心地を歩いてみたと話してくれた。東京は東京の集まり方だったりその景色がある。でも宇都宮も一本路地を入れれば気になる景色が見えたという。この地ならではの若者の集まり方も彼女たちは分かったそうだ。少女たちの問題は東京の一部の繁華街の出来事ね、とは思ってしまうのも違うのだなと感じた。対岸の火事とせずまだまだ見なければならぬものがある。

BOND プロジェクトさんのように現場にこちらから出向くのと、私たちの活動のように電話に来てもらうのと、受け止めの仕方は違えど、子どもたちの声に寄り添いたい気持ちは同じ。同じ気持ちで動いている人たちがエリアも違うところにいる。そう感じられたら、いろいろな戸惑うニュースにどうしたものかとモヤモヤする気持ちも大きかったが、少し勇気が湧いてきた。ほんの小さなことからでも活動を通して子どもたちの今を知りささやかながらでも考え見守っていけたらと思う。貴重な機会をいただけたことに感謝します。

♣回復、自立支援が一番大変で時間がかかる、リアルなお話で印象に残った。パトロールの体験談は TV で報道されている以上のことが起こっていることがわかり驚いた。

♣つらさを乗り越えて語ってくれたレイアさんとさくらさんの勇気、活動は素晴らしいと思った。お話ししてくださりありがとうございます。お二人の言葉には本当に重みがあって、涙が出てきました。



♣衝撃的な印象を持ちましたが、異世界の話ではなく栃木県でも起きていることだとも思います。一人の力では救えない場合でも連携して活動していきたいと改めて思いました。現状をきいて、驚くとともに大人がもっと考えなければならないことがたくさんあると感じました。

♣女性支援団体の職員で、高校生向けの性暴力防止講座で高校に向かっていますが、先生から「地方の高校生の中にも、ネットで見聞きして“ト一横に行きたい”と憧れている子が一定数いるし、実際何のツテもなく行ってしまう子がいる」と聞き、今日はそういった話を聞くものと思っていました。お恥ずかしいことですが、講師の皆さんが「昨夜視察した」と話されるまで、オリオン通りの現状とこの若年の問題が結びついていなかった。「最近、夜のオリオン通りは治安が悪い」とさんざん聞いていたのに、です。同じことが起きる条件は宇都宮にも整っている、すでに起きているのかもと気づきました。



盛り場を居場所として老若男女や子ども・ペットまで集う。爆音で音楽を流し、刃物を手にする「自称帝王」や「自称女帝」、女の子たちの相談を受けてお金を得る「カウンセラー」までいる。お金を得るために街に立つ子、グループを作って安く泊まろうとする子たちがいる。これは裏社会というより、どこか幼さのある“町づくりごっこ”のようにも感じられました。そこに加わることで初めて息ができる、自由を実感する子どもたちがいるのでしょうか。ト一横というものが立体的にイメージできるお話でした。

かつて、コロナ禍で若年女性の自殺者が増えていると聞いた時は、ただ空恐ろしいとしか思えなかったのですが、今回レイアさんさくらさんのお二人がご登壇くださり、ご自身のODのお話をしてくださったことで、とても身近なことに感じられました。対策できることもあるのだと知りました。貴重なお話が伺えました。ありがとうございました。

♣BOND プロジェクトの皆さんが、安全に向けて日々の見守りや、女の子たちとのつながりを大切にされていて、その活動に感謝と尊敬で頭の下がる思いです。この現状を知っているとないか、全然違うと思います。とても勉強になりました。ありがとうございました。

♣子どもたちの支援に同世代の方たち必要性を感じました。レイアさんとさくらさんの生の声は活動をととてもリアルに感じることでとても勉強になりました。4人の関係がとても素敵だと思いました。

♣コンカフェなど若い子たちが心を惹かれ、はまってしまう世界は生きづらさを抱えているいないに関係なく危ないだなどと思いました。ダメ、なんでそんなことしたのでは済まされない、子どもやその家族の何らかの障害に誰かが気付けばもっと早く支援につながれたのにとすると残念でなりません。

♣支援している方が SNS を使って容易に人とつながってしまうことで悩んでいます。支援者として時代に見合った学びが必要だと感じました。

私たち大人はどう受け止め行動するのか

2024年4月に、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律「女性支援新法」がスタートしました。官民が連携して支援を必要とする人たちに必要な支援を行き届かせることを期待しますが、私たち一人一人も見ても見ぬふりをせず、現状を知り一緒に考える、行動を起こす必要性があることを伝えてくれた講演でした。



登校の子どもやその家族を支援している NPO 法人キーデザイン代表理事土橋優平さんを講師にお迎えし研修を行いました。以下、研修内容をまとめたものです。



フリースクールでは基本的に、スマホでゲームも YouTube も制限しない。それがスタッフや通っている他の子たちとの繋がるきっかけになるから。最初はゲームを目的に通っていたのが次第に、スイーツ作り、遠足、宇都宮ブレックスの試合観戦、マルシェで花や野菜などの販売などいろいろな行事に参加できるようになり、生活リズムを整えたり楽しい事を見つけたりして、メンタルや体力回復にむかう。

キーデザインの活動において心掛けている◆「私たちの在り方」

◆解決よりまず安心

不登校の子は、どうせ自分とは自信を無くしていたり、他人が怖かったり、疲れ切ってキーデザインにたどり着いた状態なので、まずは安心して「ありのままの自分でもいい」という時間を過ごしてもらう。相談したいと思うタイミングがくれば子どもは自ら話す。

◆教えない、教わる◆「楽しい」は正義

「覚えなさい」「これはこういうルールです」という教えを浴び、教わるのが苦手になっている子もいる。「楽しい」感覚、その先にある「好き」「夢中」になれる世界があれば、大人が教えなくても、子どもはやりたい一心で自ら学び大きく成長する。(ゲーム好きが高じてローマ字打ちの為に、自力でローマ字を覚えた小学低学年の子が顕著な例。)

◆カッコ悪い大人でいい

大人も失敗して、時に弱い姿をみせていい。「ミスをしたらお互い助け合おう」

◆またいつでも気軽に立ち寄って

一回の相談で解決することではなく長い期間関わる意識で関係性を築く。キーデザインはいつでも立ち寄れる休憩所であり、燃料供給、情報収集できる港のような存在。子育ての伴走者としていつでもつながっていることが大切。

◆ひとりで支援しない

支援者も一人にならず支援者同士でたすけあうこと。

親の役割は、運転席の子の傍らで複数の道をナビし、時に休憩を促し子を休ませること。キーデザインは後部座席にいて子育ての伴走者でありたい。

キーデザインが目指すのは、不登校は悪くない、自分に合った教育を選べる社会、地域で子育てをしていく社会、「助けて」と周りに SOS を出せる社会。

フリースクールは、不登校の子ども達と親御さん達と直接的にまた長期的なかかわりとなります。一方チャイルドラインは子ども本人と電話やネットの会話のみで、その時限り。しかし、根底に流れる子どもたちへの思いには、相通じるものがあるのではないのでしょうか。キーデザインの示す「私たちの在り方」が心に沁みる土橋さんの講演でした。

チャットの受け手養成講座を開催

2024年4月21日(日) とちぎ青少年センター



受け手が増えることで一人でも多くの子どもたちとつながれるよう、オンラインチャット受け手養成講座を開催しました。

講義や実際にパソコンを使ったロールプレイなどを行い、電話とのやり取りの違いを体感しました。参加者の皆が真剣に取り組んでいました。

第13回チャイルドラインとちぎチャリティゴルフコンペを開催

2024年5月4日(土) 新宇都宮カントリークラブ



今年もゴルフコンペを開催することが出来ました。好天に恵まれ、宇都宮市長を含め72名の方が参加してくださり、プレーを楽しむと共に親睦を深めることが出来ました。ご寄付いただいた206,207円は子どもたちの支援のために大切に使用させていただきます。



フェスタ my 宇都宮に参加

2024年5月19日(日) 宇都宮市城址公園

明るく、楽しく、美しいまちづくりの一環として行われた宇都宮市のイベントに、今年もチャイルドラインが参加しました。子ども広場の一角に子どもくじを出店しました。

子どもたちにはチャイルドラインを知っている?好きな場所や何をしている時が楽しい?などのアンケートにも参加してもらいました。年齢が上がるほどチャイルドラインを知っている割合が高くなり、また好きな場所は家・学校・公園、ゲームや友達と遊んでいる時が一番楽しいという答えが多くありました。



能登半島地震被災地支援のため寄附をしました

チャイルドライン支援センターからの呼びかけで、被災地の子どもたちをサポートする取り組みに向けて、全国組織として寄附を集めることになりました。

とちぎでは事務所内に募金箱を設置し13,500円を寄附しました。

ご支援ありがとうございました

令和6年1月～令和6年6月

団体

相沢商会有限会社 いたうこどもクリニック くろさきこどもクリニック 福田こどもクリニック
あんどうこどもクリニック 宇都宮ありがとうの会 株式会社小牧工業 宝泉寺
有限会社いちご広告社 柏建設株式会社 白石環境株式会社 社会福祉法人明誠会
やしお幼稚園

個人

浅香 淳子 小野 悦子 関端 榮子 田卷 秀樹 浜村 美香 村山 雅子
生野 裕子 柏崎 和枝 曾篠 健二 千葉れいこ 廣瀬 隆人 森 るみ子
宇賀神芳江 黒崎 佐代 高井 真二 寺脇 立子 福田 容子 山本 令子
浦部 延子 黒政 幸子 高橋 昭夫 成田 泰進 古川 弘 若色美佐子
枝野 滋子 小林 孝司 竹内 望 沼部 博成 星 紀彦
大島 誠 鈴木 潤子 蓼沼 真弥 野澤 明夫 松江比佐子
大庭 千鶴 関沢 紀 谷 博之 野中 友則 丸山由美子

(敬称略・五十音順)

インフォメーション

チャイルドラインとちぎが参加します！

夏の全国キャンペーンに参加 8月22日(木)～9月4日(水)

子どものつらい気持ちのピークといわれる夏休み終了前後の今年もこの時期に、チャイルドライン全国キャンペーン「聴かせてほしいあなたの声」開催します。

チャイルドラインとちぎは聴く体制を強化して、子どもの声をたくさん受けとめたいと思います。

8月3日(土) 4日(日)

「第49回 ふるさと宮祭り」

警備ボランティアとして参加します！

11月10日(日)

「ふれあいフェスタ」

とちぎ青少年センター(アミークス)

11月17日(日)

「第15回子ども虐待をなくそう！

県民のつどい」 白鷗大学

12月15日(日) 「サンタ de ラン&クリーン」 宇都宮市中心部

子どもの貧困撃退♡チャリティ『サンタ de ラン』とは、子どもの貧困を知ってもらい、県内で子どもを支援している団体を応援する寄付を集めることで、子どもの貧困をなくすためのイベントです。チャイルドラインとちぎは、寄付先(寄付をしていただく)団体として参加します。

ぜひ、皆様の温かいご支援をお願い致します。

チャイルドライン支援のお願い

チャイルドラインとちぎは認定NPO法人です。当法人への寄付に際しては、税法上の優遇措置を受けることができます。フリーダイヤルを継続していくために、ぜひご支援くださいますようお願い申し上げます。

支援会員 個人一口 3,000円 団体一口 10,000円

郵便振替 口座番号 00120-2-659158

加入者名 チャイルドラインとちぎ

銀行振込 栃木銀行において本会の趣旨に賛同くださり、本会所定の振込用紙による同行本支店の振込手数料を無料扱いにしてくださっています。お振込みの場合は下記に「振込用紙」をご請求ください。

問合せ先 チャイルドラインとちぎ TEL・FAX 028-614-3253 E-mail info@cltochigi.org